

6月の技術対策（水稻）

平成18年6月1日
J A きたそらち・J A 北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

1 分げつ期間の水管理

(1) 移植後の水管理の注意点

移植後は、初期茎数の確保と生育を促進させる水管理が大切です。

表1 分げつ期間の水管理の注意点

時 期	目標水温	水 深	水管理の注意事項
活着期～ 分げつ期間	23 (昼間 30 以上、 夜間 15)	○通常：4～5 cm ○低温・強風・晩霜が予想 される時：深水6～8 cm(最上位展開葉の付け根 まで)	○止水管理をする。 ○かんがいは夜間～早朝に行う。 ○気象情報に注意し事前に入水し、 水温上昇を促す。 ○水深10cmは分げつが抑制される ○初期生育不良の場合：浅水2～3cm

(2) 過剰分げつ発生を抑制し、登熟性を高めましょう

「きらら397」で、初期生育が旺盛なところは過剰分げつの恐れがあります。生育状況を的確に把握し、表2の本数を超えた場合は、10cm程度の深水管理で分げつの発生を抑制しましょう。

表2 過剰分げつの目安（きらら397）

栽植密度		株間 (cm)	6月15日	6月20日	6月25日	6月30日
(株/m ²)	株/坪		300本/m ²	400本/m ²	575本/m ²	750本/m ²
27.5	91	11	11本/株	15本/株	21本/株	28本/株
25.3	84	12	12	16	23	30
23.3	77	13	13	18	25	33
21.6	71	14	14	19	27	35

(3) 激しいワキ（土壌還元）対策に中干しと溝切りを！

無理に耕起したほ場やぬかるむ水田は、地温の上昇に伴いワキが発生しやすくなります。ワキの発生は水稻の根を傷め生育を遅延させます。

ワキの発生が激しい場合は中干しを実施しましょう。中干しは、最低気温が14以上で好天が続く時に行います(3～5日以内)。さらに、溝切りを併せて行うと効果的です。中干しは、幼穂形成期までに終わらせてください。

表3 ワキの症状と対策

ワキの症状	根の症状	対 策
・水田内に踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	・水の入れ換え。 ・暗きょ水こうの開放。
・水田内に踏み込むと盛んに気泡が発生する。	根の張りが不良	・暗きょ水こうの開放。 ・一時落水。
・晴天時、自然に気泡が発生、音が聞こえる。 ・水田内を歩くと著しく気泡が発生する。 ・悪臭が発生。	根の伸長阻害 地上部の黄化	・幼形期前の数日、軽く比が入る程度の中干し。

2 前歴期間の水管理

不稔の多発は、減収するだけではなく、蛋白含有率を高めます。不稔を防止するには、幼穂形成期から約20日間の水管理が重要なポイントとなります。幼穂形成期後10日間は前歴期間で、花粉の数が決まる大切な時期です。必ず深水管理を行いましょう。

(1) 幼穂の確認方法

平均的な生育の稲の主茎を根元から切り取り、その主茎の基部をカミソリで縦切りにし確認します。幼穂長が2mmに達した時を幼穂形成期とします。幼穂形成期の観察は、6月20日過ぎから行う必要があります。

参考	幼穂形成期	きらら 397	深川 6月30日	沼田 7月2日
	支所 平年	ほしのゆめ	深川 6月27日	沼田 6月27日



(2) 前歴期間の水管理のポイント

目標水温	水深	水管理の注意事項
25 (21以上は 確保する)	前歴期間の終わりに は水深10cmにする。 (1回当たり2~3cm を目安に水深を増加)	○急激な深水は水温が低下し 保温効果が劣る。 ○畦畔にゆるみや漏水がない か確認する。

図1 幼形期の
見分け方

3 初期発生害虫の防除

イネミズゾウムシ・イネドロオイムシなど昨年発生した場所は、特に発生予察を行い、要防除水準に達したら、速やかに防除を行い、防除効果を高めましょう。

表4 病害虫の被害許容水準と防除方法

害虫名	病害虫発生予察情報(5月予報)	要防除水準	薬剤例
イネミズゾウムシ	発生期：並、発生量：並	株当たり2卵塊	ダントツ
イネドロオイムシ	発生期：並、発生量：やや多	株当たり成虫0.5頭	シロバック
アザミヤガ(イネアムシ)	発生期：並、発生量：やや多	株当たり幼虫2.7頭	トボシ

【注】各JA、各生産組合で使用農薬を指定している場合は、これに従ってください。

4 葉いもち病の予防薬剤散布

補植用の苗箱の放置はいもち病の発生源となりますので、さし苗終了後、速やかに水田周辺から撤去しましょう。

また、いもち病耐病性が劣る「ほしのゆめ」・「ななつぼし」や茎数が多く大出来したほ場や葉色の濃い場所、風のたまる場所などいもち病の発生しやすい場所には、水面施用剤の使用を検討しましょう。

表5 いもち病予防薬剤

薬剤例	散布時期	注意事項
オリゼメート コラトップ	葉いもち病の初発 7~10日前(6月下旬)	水面施用後4~5日間は 水深4~5cmの止水とする

5 ドリフト(農薬の飛散)軽減対策

(1) 粉剤散布は特にドリフトに注意しましょう

- ・必ず粉剤DLを用いる。
- ・微風でもドリフトするので、風のない時に散布する。
- ・風を利用した流し散布は絶対に行わない。
- ・ドリフトを回避するため、朝露のある時間帯に散布する。
- ・パイプダスタの使用に当たっては、長いホースの使用は避け、風のない時に散布する。

(2) 液剤散布は風の弱い時に風向きに注意して!

風の弱い(風速3m/秒以下)早朝か夕方に散布しましょう。

また、注意を要する方向に強めの風が出始めたら、散布を中断します。

表6 風力の判断目安

風力	地上10mの風速(m/秒)	陸上の状態
0	0.0~0.2	静穏、煙はまっすぐに昇る。
1	0.3~1.5	風向きは煙がなびくのでわかる。
2	1.6~3.3	顔に風を感じる。木の葉が動く。
3	3.4~5.4	木の葉や細い枝が絶えず動く。
4	5.5~7.9	砂ほこりが立ち、紙片が舞い上がる。小枝が動く。